



小田原男声合唱団

第52回定期演奏会



川崎洋

男声合唱曲「やさしい魚」作詩

尾崎喜八

男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」作詩

2023年12月3日(日)

13時45分開場 14時30分開演

小田原三の丸ホール大ホール

後援

小田原箱根商工会議所

日本男声合唱協会JAMCA

神奈川男声合唱協会KAMCA

湘南合唱連盟

小田原地区合唱連盟

小田原音楽連盟

本公演はさがみ信用金庫地域文化芸術振興基金助成事業です



第51回定期演奏会より

♪ ご挨拶 ♪

本日は、小田原男声合唱団第52回定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。小田原男声合唱団は、2019年末から続いたコロナ禍にあっても、毎年定期演奏会を重ねてまいりました。そして創立52年目の本日、第52回定期演奏会を迎えることができました。これもひとえに本日もお越しいただきました皆様方をはじめ関係各位の御理解と御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今年の小田原の演奏活動は、6月の第70回湘南合唱祭が始まりました。同合唱祭では名譽ある講師賞を受賞しました。そして同月の日本台湾親善合唱交流in小田原、10月の第56回小田原市民合唱祭を経て、本日の定期演奏会へと繋いでまいりました。私たちは新たな50年に向けてスタートを切ったわけですが、多くの合唱団が共通に抱えている高齢化と団員の減少に歯止めがかかっておりません。

コロナ禍前に40名を優に超えておりました団員は、現在、30名を切っている状況です。本日も越しの男声合唱を愛する皆様、是非、次回から我々と一緒にこのステージで歌いましょう。心からお待ちしております。

今年、これまでの4度の海外公演や小田原市海外姉妹都市千葉県市合唱訪問等の活動にご理解をいただいた企業、団体から支援を受けることができました。サポート頂きました関係各位に心より御礼申し上げます。

さて、小田原が理事団体である日本男声合唱協会(JAMCA)は、来る2025年4月19日(土)20日(日)、ここ三の丸ホールにて「第25回JAMCA小田原」として35年ぶりに小田原で演奏会を開催する予定です。私たち小田原が主管団体としてその演奏会を取り仕切ることとなりました。



小田原男声合唱団
団長 杉本 健二

全国から小田原に結集する約50団体に所属される延べ1,000名近くの男声合唱団員をお迎えする予定です。御期待ください。

本日のステージは昨年同様3ステージです。趣の異なる3ステージをどうぞお楽しみください。団員一同、本日も越しのお客様の心に響く演奏を精一杯心がけてまいります。

これまで時に厳しく、時に優しく、常に熱心にご指導いただきました辻秀幸先生、村田雅之先生、中根希子先生、杉山範雄先生にこの場をお借りして心から感謝の意を表する次第です。

最後になりましたが、コロナ禍以来、合唱活動を取巻き社会情勢が厳しかった時も、私たちが小田原の活動に御理解と御協力をいただきました関係の皆様、そして、ご家族の皆様方に心より感謝申し上げます。

♪ プ ロ グ ラ ム ♪

I 男声合唱組曲 「尾崎喜八の詩から」

～ワンステージメンバーを迎えて

尾崎 喜八 作詩 多田 武彦 作曲
指揮 村田 雅之

- I 冬野
- II 最後の雪に
- III 春愁

- IV 天上沢
- V 牧場
- VI かけす

II 川崎洋の詩による五つの男声合唱曲 「やさしい魚 (うお)」

川崎 洋 作詩 新実 徳英 作曲
指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

感傷的な唄
ジヨギングの唄
天使
鳥が
やさしい魚 (うお)

—— 休 憩 ——

III 男声合唱のための唱歌メドレー 「ふるさとの四季」

～ワンステージメンバーを迎えて

源田 俊一郎 編曲
指揮 辻 秀幸 ピアノ 中根 希子

故郷 (ふるさと)
春の小川
朧月夜 (おぼろづきよ)
鯉のぼり
茶摘 (ちやつみ)
夏は来ぬ

われは海の子
村祭
紅葉 (もみじ)
冬景色
雪
故郷 (ふるさと)

※ワンステージメンバー：I またはII ステージ (ワンステージ) に限り参加いただいている協演メンバー

許可なく「写真・動画撮影」「録音」などはできません

I 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」尾崎喜八作詩 多田 武彦 作曲

この組曲は、尾崎喜八（1892-1974）の詩に、多田武彦が作曲した作品で、関西学院グリーククラブからの委嘱曲（1974年初演）だった。尾崎喜八は戦後7年間、長野県に居を構えていたこともあり、自身も山歩きをし、自然と山岳を主題とした詩を数多く残した。この組曲は多田武彦が尾崎喜八の詩集「花咲ける孤独」の2篇の詩を核として、他の詩集から4篇を選び出した。山々の四季を意識し、その自然の移り変わりを感じられ、喜八の心情とともに立体的に表現されている作品である。喜八は銀行家、翻訳家、随筆家を経て詩を描くようになつたが、音楽にも造詣が深かつた。草野心平や高村光太郎とも時代が重なり、彼らとの関係の中で独特な作風が育まれたと考えられる。その特徴として三好達治は、喜八作品は口語自由詩の完成度にあると言つていた。

I 冬野 詩集「花咲ける孤独」より

「花咲ける孤独」は1955年に出版され、中には64の詩が含まれている。今回の合唱にはこの詩集の中の「冬野」を始めに、「かけす」を終わりに、間に4つの詩を組み込み、この組み合わせにより冬～秋までの雄大な景と心情を詠い上げた。

冬野である広大な畑地（現在の千葉県三里塚あたりのようだ）に夕暮れが懸ると、畝に霜が結び、琵琶をかき鳴らすような風の高い音が響き渡る。その天地の間に古代からの恵みの躍動が聞こえてくる。春はまだ先だが、予感はずでに揺らめいている。・・・この暮れゆく晩い土を踏んで、喜八自らがこの大地に麦の種を播き（精神的な意味も含めて）、自然と共に生きる。そして、獲り入れの時には燃える翡翠色の海のような六月を迎えることになるのだろう。

II 最後の雪に 詩集「高層雲の下」より

「高層雲の下」は1924年に出版され、42の詩が含まれている。1950-51年には中学三年生の教科書にも採用された。

詩の内容は、田舎のわが家の窓ガラスの前で、冬の終わりを告げる水気が多い牡丹雪が白いワルツを踊りながらやがて来る。雪は周りの野に藪に島に路に、そして、私の窓の前に降り注いでいる。どうか私の詩に高貴さを加えてくれ。・・・やがて、微風と雲雀を伴い、遠い地平から輝く春がやがて来る。

III 春愁 詩集「その後の詩帖から」より

副題に～ゆくりなく八木重吉の詩碑の立つ田舎を通じて、とある。山歩きをしていて田舎道で見つけた詩碑は、偶然にも29歳と若くして亡くなった八木重吉の生家の前にあった。その時、喜八は67歳。幸いにして自身は、老いを軽敷でできているし、「賢さ」や「澄み晴れた成熟」の境地に至っている。しかし、思い返すと青春の燃える愛や衝動や仕事への奮闘・・・それらがうまうまかみ合わなかったものだ。今の賢さや成熟さがあればと悔やむしかない。ふと周りを見渡すと春が始まる時。梅花匂う田舎、赤々とした夕日、谷間の宵の明星などから人生を振り返ることになったのも、一つの春愁なのだろう。

多田武彦（1930-2017）は京都大学在学中に男声合唱団の指揮者として活躍した。当時、知遇を得た清水脩に作曲の助言を得ていた。清水脩と共に日本の男声合唱の基盤を築いた音楽家である。代表作として、北原白秋の詩から「柳河風俗詩」、草野心平の詩から「富士山」を筆頭に、雨をテーマにした各詩人の作品を集め男声合唱組曲の代表作「雨」も発表した。「多田武彦男声合唱組曲」は、1～8まで刊行され、日本の男声合唱の集大成化を行った類まれな存在である。小田原男声合唱団とは、「西湘の風雅」「五葉小景（ごかんしょうけい）」「達治の旅情」「大木惇夫の詩から一四季點綴（しきてんてい）」などの委嘱曲の作曲依頼や客演指揮者をお願いするなどの関係が深かつた。

IV 天上沢 詩集「旅と滞在」より

「旅と滞在」は1933年に出版された。山の詩人とも言われた喜八の40歳ごろの作品であり、「人生とは、この世での滞在であり、それぞれの旅でもある」ことを表現したものだ。

詩中にある「みすず刈る」の「みすず」は篠竹のことで、全体では 信濃に懸る枕詞である。「ごごしき」とは「岩がごつごつと重く険しい」と言う意味である。

信濃の国の大いなる夏。山々のたまたま、谷々の姿はもとに変わることはない。夏になると安曇野には雲、槍穂高には日が照り、そしてまた曇り、砂には秋、岩には岩雲雀。・・・燕（つばくろ）より西音へと案内の若者に連れられ、老人一人がいつて行く・・・。

V 牧場 詩集「高原詩抄」より

「ぼくじょう」ではなく「まきば」と読む。「高原詩抄」は1942年に出版された詩集で、4月には米軍機による東京初空襲、6月にはミッドウェー海戦の敗北、8月米軍がガガナルカナル上陸という惨状の中で喜八の詩の内容とは裏腹な現実の中で出版である。

大自然の中の広々とした景色の中で、牛が青草を食べ、ゆったりと放牧されている。しかし、時代を考えるとその表現された内容は異なる意味を持つのかも知れない。・・・夏も終る頃、白雲が峠を越え、牛らは目を上げて雲の行衛（ゆくゑ）を眺めている。やがて風が立ち、夕日の光が流れ、風に送られ日を浴びて牛は牧場を下る。

VI かけす 詩集「花咲ける孤独」より

I 冬野に述べた同じ詩集から採用され、秋の冷たい様をかけすの姿から詠いあげた。かけすは、鳥綱スズメ目カラス科カケス属の鳥で体長30センチくらい。

八ヶ岳の裾野に広がる富士見高原に住んでいた頃のことであろう。当時の心情を かけすの姿として追っていた作品である。かけすと言う仮の名も人間との地上の契りの夢だったと、今は懐かしく、柔らかに思う・・・深まる秋の冷たい空の海にもうほとんど消えて行く。

冬から始まった曲が、秋で締めくくられている。

（解説：B1中村 敬、参考：B1伊東 清邦<故人>）

I 冬野

いま 野には
大きな堅琴のような夕暮れが懸かる。
嚴肅に切られた敵(うね)から敵(うね)へ霜がむすび、
風の長い琵琶音(はおん)がはしり、
最初の白い星がひとつ
もつとも高い鐘(かね)を打つ。
春は古代のようにひろるびると枯れ、
春はまだ遥かだが
予感はずでに天地の間(かん)にゆらめいている。

わたしはこの暮れゆく晩(おそ)い土をふんで
わたしの手から種子を播く、
夕日のようにみなぎって
信頼のために重い種子を。
それは洗む、
深く仕えるもののように、
地底の夜々を変貌して
おもむろに遠い黎明(はいめい)をあかるむために。
きよらかな、澄んだ凝縮が感じられる。
ただ周囲の蒼然たる沈黙のなかで
わたしの心が敬虔な讃歌だ。
そしてもう聴いている、
とりいれの野が祭のような、
燃える正午が翡翠(かみせみ)いろの
海のような六月を……………

II 最後の雪に

田舎のわが家の窓硝子の前で
冬のおわりの花びらの雪、
高雅な、憂鬱は老嬢たちが
朝から白いワルツを踊っている。
その窓に近い机にむかって
私の書く光明の詩、
早春の夕がた、透明な運河の
水や船や労働を織りこんだ生気の詩。
雪よ、野に蔽に、高に路(みち)に、
そして私の窓の前、
お前たちの踊る典雅なヴァイナ・ワルツの
その高貴さを私の詩に加えてくれ。

やがて遠い地平から輝く春が
微風と雲雀とのその前駆を送るとき、
古い詩稿に私は愛を感じるだろう、
お前たち、高雅な憂鬱な老嬢たちの
窓の前であの最後の舞踏のため、
私の内ですらいつも柔しい記念のため。

III 春愁

一ゆくりなく八木重吉の詩碑の立つ田舎も通って

静かに賢く老いるということば
満ちてくつろいだ願わしい境地だ、
今日しも春はじまったという
木々の芽立ちと若草の岡のなぞえに
赤々と光たゆたう夕日のように。
だが自分にもあった昔春の
燃える愛や衝動や仕事への奮闘、
その得意と蹉跎の年々(としどし)に
この賢さ、この澄み晴れた成熟の
ついに間に合わなかったことが悔やまれる。

ふたたび春のはじまる時、
もう梅の田舎の夕日の色や
暫しを照らす谷間の宵の明星に
遠く来た人生とおのが青春を惜しむということ、
これをしまもまた一つの春愁というべきであらうか。

IV 天上沢(てんじょうさわ)

みすず刈る信濃の国のおおいなる夏、
山々のたたずまい、谷々の姿もとに変らず、
安曇野に雲立ちたざり、槍穂高日は照り曇り、
砂に這う這松、岩にさええざる岩雲雀、
さてはおおりおりの言葉すくなき登山者など、
ものなべて昔におなじ空のもと、
燕(つばき)のより西岳へのごときほとり、
案内の若者立たせ、老人ひとり、
追憶がまぶした濡らした水にうかんで
天上(てんじょう)の千筋の雪の彷彿たるを見つめていた。

V 牧場

山の牧場の 青草の 青草に
あまたの牛を はなちけり。
あまたの牛は ひろるびると
空の真下に 散りにけり。
夏もおわるか 白雲の
きょうも峠を こえて行く。
立ち臥す牛ら 眼を上げて
雲の行衛(ゆくえ)を ながめけり。

山の牧場に 風立ちちて
夕日の光 ながれけり。
風に送られ 目を浴びて
牛は牧場を くだりけり。

VI かけす

山国の空のあんな高いところを
二羽三羽 五羽六羽と
かけすの鳥のとんで行くのがじつに秋だ
あんなに半ば透きとおる
ときどきはちちらちら光り
空気の波をおもたたくわけて
もう二度と帰って来ない者のように
かけすという飯の名も
人間との地上の契りの夢だったと
今はなつかしく 柔らかく
おおりおりはたぶん低く啼きながら
ほのぼのと 暗み 明るみ
見る見るうちに小さくなり
深まる秋のあおくつめたい空の海に
もうほとんと消えてゆく……………

Ⅱ 川崎洋の詩による五つの男声合唱曲「やさしい魚(うお)」

川崎洋 作詩 新実 徳英 作曲

川崎洋(ひろし)は、1930年東京大森生まれ。1944年に福岡県八郡に疎開。51年西南学院専門学校英文科中退。横須賀の米軍キャンプに勤務していた。18歳ごろから詩を書き始め、23歳の時に詩人の茨木のり子と詩誌「糧」を創刊。谷川俊太郎、大岡信を同人に迎え、当時、活発な詩の創作に励んだ。代表詩集に「はくちょう」「象」「食物小屋」「重いつばさ」などがある。

男声合唱曲「やさしい魚(うお)」は、作曲されることをまったく予期せずに書かれた詩であったようだ。本人は、学生時代にグリー、横須賀時代に混声合唱を数年間ずつ歌っていたということもあって、5篇の詩が混声合唱曲になると新実徳英氏から電話をもらって、「驚きと喜び」を同時に味わうことができたと思いを述べている。

新実徳英(にいみとくひで)は、1947年名古屋市生まれ。東京大学工学部卒業後、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。間宮芳生、三喜晃らに師事。幼稚園からヴァイオリンを習い、高校・大学で合唱に出会う。管弦楽、吹奏楽、室内楽、邦楽、歌劇、歌曲、合唱曲などの作曲カテゴリーは広い。「やさしい魚(うお)」の男声合唱の初演は、1983年12月早稲田大学コーラル・フリュエーゲル第29回定期演奏会であった。

本楽譜の巻頭言にある「表現について」の新実の言葉を載せておきたい。～作曲という表現行為が完結し譜面ができあがる。が、これは真の完結ではない。より良く、より充分に感じ・観ずる人々がこの譜面を手にとり、かつ私の内に脹らんだ音は今度は輝ける音として外に表出されてゆく。それは、演奏する人々の、聴く人々の、そして私の裡に何かを生起させる。一つの、環が閉じ、また新たな環へと広がっていく。

<下記解説は、楽譜「男声合唱曲『やさしい魚』」の冒頭にある五つの詩に寄せてより抜粋・編集したものである>

感傷的な唄

自分がセンチメントに溺れるのを、単には許されることだろうということ、涙腺のネジをいっばいゆるめたような詩である。当人とっては、気恥ずかしい代物だという。詩内にある「体温計のケースにした恋文」は、実話だそうだ。曲は、4/4+3/4(拍子)という変則的な拍でスタートさせている。全体に川崎らしい詩を新実らしい表現で創り上げられた独特な曲になっている。

ジヨギングの唄

日常的な言葉による詩ではあるが、曲としてはユニークな仕上がりになっている。川崎洋は、かなり気に入っている詩のようだ。人の目を誘い寄せる新奇なイメージを恣意のままに膨張するより、思念や情感の根を地に下ろしたところで詩を書きたいという気持ちから生まれたという。しかも、それは生き方にもつながると。

平均年齢75歳の小田原男声の団員としては、この唄を自分たちのものにするためには、かなりの鍛錬が必要だった。息切れ、コース離脱など様々な壁が前面に立ち塞がっていた。さて、どれだけの壁を打ち破り、超えることができたか。

天使

ふっと湧いたイメージをもとに、衝動的に短時間のうちに書き上げた詩。詩内にある「ひどいこと」は、純粋無垢なイメージの天使の衣を引き裂き、「(天使の)傷ついた翼」に続いて、その口調に乗って、かなり嗜虐性のある野卑な言辞をもてあそびそうになるという感じを表現したという。天使の愛船がテーマのようで、なかなか意味深な曲になっている。

歌っていてもこの川崎×新実ワールドに浸っている自分たちが、天使に出逢えているような幻想にとりつかれてしまふほど魅力的なハーモニーである。

鳥が

1982年全日本合唱連盟コンクールの選択曲として男声版「鳥が」が生まれた。この曲がきっかけで、全5曲の「やさしい魚(うお)」男声版が誕生することになる。この詩は、企業のカレンダーの「鳥と花の絵柄」に刷り込むために依頼された詩だった。鳥も花もそして人も見た目の形状ほど、実は、それほど変わってはいない。そして、何よりもこれらすべてが自分と血のつながった存在であると認識した曲である。大らかな風景が、空高くそして目の前に広く輝いて見えてくる曲の構成になっている。

やさしい魚(うお)

子供がひとりで絵を描きながら歌くような具合に、いい年をした大人が、その歌きを文字にした詩。やさしさのうろこが剥がれる痛みを表現した曲である。歳月を十分なまで重ねた私たちだからこそ、この歌の深さを知らされる気がしてならない。強いからこそやさしくなれると聞いている。

ODADAN-YouTubeのお知らせ

第6回～第51回定期演奏会の中からピックアップしてYouTubeに現在まで単曲、組曲など50本ほどアップロードしております。是非とも「小田原男声合唱団」で検索いただき視聴(静止画です)いただければ幸いです。本日の第52回定期演奏会も後日、アップさせていただきます。

<第50回定期演奏会より>

箱根八里



からたちの花



QRコードからアクセスいただくYouTubeチャンネルがあります

川崎洋の詩による五つの男声合唱曲「やさしい魚（うお）」

JASRAC 出23063336-301

感傷的な唄 一詩集「象」より

風が吹くから
生きよう
そう思う前に
もう足が駆け出していた

風が吹くから
見えないものを
信じることでできた

不意に思い出す
トンボががながなとときの
カシヤ という音

小鳥の歌に
人間の歌で返事しよう
と思っただけのこと

体温計のケースに
しのはせて
手渡そうとした恋文は
とうとう渡せないまま
あれから
どこへ行ったのだったか

唄好きな蝶番（ちようつかい）は
他の星から飛んできた風船と
よく話をしていたし

位の低い神様のベンチには
主題のない招待状が
陽に光っていた

死んでしまつて
肉体もすっかり減びても
私の
もう此の世のものではない耳に
美しい歌だけが聞こえてくる
そんな祈りが
もしかして
適（かな）えられないだろうか

ジヨギングの唄 一詩集「食物小屋」より

おれは常套句を愛する
すなわち
<自分の歩幅で>
というやつだ
および腰の知性なぞ
古い運動靴のように打ち捨てて
わっしよい

人は
よりよい明日をつくり得る
と
意地でも思い込んで
わっしよい

心臓から押し出された血が
ふたたび心臓にもどるのに
1.8秒しか かからぬぞうな
寸刻ごとに
新しいのだぞおれは
わっしよい

おれの生き方は
こうなのだ
こうなのだ
こうなのだ
と確かめながら
いとしい地球を踏んで行くのだ
わっしよい

天使 一詩集「象」より

まなざし
だけが
みえる

め
のかたち
でなく

まなざし
という
じの
むこうの
いめーじ
が

おなじように
つばさ
の
きずが

そして
てんし
に
ことよせて
ひどいこと
を
いいそう
に
なる
のを

いっしょうけんめい
に
こらえる

鳥が 一詩集「食物小屋」より

鳥が
空を見上げるように
花が つぼみを ほどく

鳥が
羽ばたこうとすするように
花が 葉をしげらせる

鳥が
飛びたつように
花が 咲きそめる

鳥が
歌うように
花が におう

そして
人は ことばで
鳥のように飛び
花のように咲く

やさしい魚（うお） 一詩集「象」より

やさしい魚（うお）のやさしいうろこが
月曜日に一枚火曜日には二枚剥がれた

剥がれたうろこは銀色にひかりながら
海の中見えない底へ沈んでいく

やさしい魚（うお）のやさしいうろこが
水曜日に三枚木曜日に五枚剥がれた

うろこが剥がれて
やさしい魚はひりひり痛い

やさしい魚（うお）のやさしいうろこが
金曜日に十四枚土曜日に三十八枚剥がれた
日曜日 歌おうと海に来てみれば
砂に終止符のようなやさしい魚（うお）のなきがら

日本男声合唱協会第25回演奏会「JAMCA 小田原」

2025年4月19日（土）20日（日）
小田原三の丸ホールにて開催決定

北海道から九州までの団体会員、個人会員が
小田原に集結し、2日間にわたって男声合唱の
魅力を披露します

Ⅲ 男声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」 源田 俊一郎 編曲

「ふるさとの四季」男声合唱版の冒頭に、編曲者の源田俊一郎氏は「日本人の持っている「ふるさと」への思いが、世界の人々に共感されるメッセージとなることを願います」と書いている。

「ふるさとの四季」混声合唱版が同じ編曲者によって世に送り出されてから30数年が経過した。男声合唱版は2002年に「九州フレッシユメソニア」の委嘱で作られて、同合唱団の第一回定期演奏会で演奏された。各曲とも最初の「故郷」を除き、1番2番を中心にして編曲されている。なお、本日は最初の「故郷」から最後の繰り返しまで12曲を連続して演奏する。

故郷 高野 辰之作詩 岡野 貞一作曲

原曲は 1.忘れえぬ「故郷」の自然 2.思い出される故郷の父母・友 3.懐かしいふるさとの自然と人々々々への望郷の思いで構成されていて、編曲は 1. を最初に歌い、2. 3 を最後に歌うようになっている。

この作詩・作曲者のコンビの曲がこの曲集に5曲入っているが、クリスチャンの作曲家岡野貞一の曲は、人の心に深く届く讚美歌のような旋律で、彼の作品が長く愛される一つの理由かも知れない。

春の小川 高野 辰之作詩 林 柳波 改作 岡野 貞一作曲

曲は一転して小川の流れを思わせる16分音符のピアノ伴奏で始まる。歌のモデルとなったのは東京代々木公園付近から渋谷方面に向かって流れて居た河骨川と言われる。作詩者の高野辰之は明治42年頃代々木三丁目に住んでいた。小田急線の代々木八幡駅から参宮橋駅に向かう遊歩道沿いの線路際に「春の小川」の歌碑が建っていて、この碑の歌詞の文字を模したのが高野の娘弘子である。東京オリエンピックを機に川は暗渠となり、この川が歌の舞台であることを知る人は少なくなった。

麗月夜 高野 辰之作詩 岡野 貞一作曲

「麗月夜」は、春の夜に月がほのかにかすんでいる情景を示す春の季語である。高野辰之の郷里の長野県では春になると菜種油を絞るためのアブラナの花の黄色い花で覆われたという。「においあわし」は古くは「色合」を示す意味で、月やアブラナの花が匂うわけではない。

西の空に「入日薄れて」東の空にかかる「夕月」は、三日月より進んだ上弦の月だったろうか？ 一幅の絵を思わせる日本の風景である。

鯉のぼり 文部省唱歌

曲は編曲者のBravelyの指示に従いアレグレットで勇ましく始まる。男の子の健やかな成長を願って、鯉のぼりを立てる風習は、室町時代に中国（当時は明）から上流社会に伝えられ、江戸時代になって庶民の間にも広まったと言われる。「武家はもとより、町民に至るまで、甲冑人形を飾り、紙で鯉の形を作り、竹の先につけて立てた」とされる。

1番は、雲の波越しに見える鯉のぼり、2番は遠くで見る鯉のぼりである。

茶摘 文部省唱歌

八十八夜前後に摘む一番茶が上等とされてきた時代、近郷近在から女性を集めて、歌を歌いながら茶の葉を手で摘み取った。昨今、新茶の時期が早くなり、しかも茶葉は機械で摘み取られることになり、歌のような昔の笠、茵たすきは見られなくなった。因みに未婚女性は茵たすき、既婚女性は黒たすきを身に着けたと言われるが、今では見分けることが出来ない。

1859年の開国以来、横浜港から積み出される茶は輸出品の筆頭に挙げられた。

夏は来ぬ 佐佐木 信綱 作詩 小山 作之助 作曲

1896年に発表された曲。「夏は来ぬ」は「夏が来た」の意味。「忍び音」は、その年に初めて聞かれるホトトギスの鳴き声を意味する古語で、古今和歌集、枕草子にも登場する。「卯の花」はウツギの花で旧暦の4月（卯月）に開花するので、この名がある。

「玉苗」は「早苗」同様、苗代から田に移し植えられる苗を意味する。農業近代化で山村の「山田」はなくなり、「裳裾を濡らして田植えする早乙女」を見ることがなくなり、ホトトギスの声は聞かれない。元の詩は5番まであり、格調が高い。

われは海の子 文部省唱歌

農村の夏を告げてから、1小節置いて2分の2拍子で堂々と「海」を歌う。この曲の作詞者は不詳と言われて居たが、宮原晃一郎が原作者であることが後日判明した。鹿児島海で育った少年の抱負を歌いあげていたが、戦後、7番まであった歌詞は剛られ、海育ちの少年の夢は委縮してしまった。東京都多摩聖園に作詩者の自筆による歌詞（一番のみ）が書かれた歌碑が彼の墓所にならんである。

村祭 文部省唱歌

村の祭りは遠雷のような太鼓の音（2度・4度のピアノ伴奏）で始まる。作詩された当時には、年に一度の村祭りにはそれぞれが郷里に帰り、村が総出で祝う「大祭り」が見られた。神社の森にはためく旗、人々の波、響く笛・太鼓の音……。しかし高度経済成長に伴い「村」は姿を変え、過疎化・高齢化が進み、「村祭り」は消えつつある。

紅葉 高野 辰之作詩 岡野 貞一作曲

曲はアレグロの「村祭り」から一転して静かな分散和音のアンダンテに入り、静かに日本の秋を代表する「紅葉」が歌われる。

1番は山のふもとの「裾袂」の紅葉、2番は「川面に散る」紅葉が錦を織るさまだが、高音部と低音部の「掛け合い」で表わされている。

冬景色 文部省唱歌

紅葉が散ると冬が来る。曲名は冬景色であるが、初冬（小春日＝旧暦10月）の景色である。1番は、まだ人が起きだしてこない時、水鳥の声のみがする。港の小舟には霜が白い。2番で音楽は転調して、昼時、小春日和、人は麦踏みをしている、カラスが鳴いている、返り咲きの花も咲いている。

雪 文部省唱歌

季節は進んで、「さあ雪だ」。ピアノは、はしゃいだ付点音符を打つ。「あられ」は降り積もることはないが、本格的な冬には雪は積もり、枯れ木には花が咲いたようになる。この曲が作られた時代には、薪は室内で飼い、犬は屋外で飼っていたのだろう。「雪やこんこん」は「雪よ、来い来い」の意味で「こんこん」と雪が降るのではない。

ここで、1小節（フェルマータ付き）休んで「故郷」に戻り、故郷へ想いを馳せ、アカペラで父母・友への想いを静かに歌う。転調して力強く「志を果たして・・・」と歌い、再び故郷に想いを馳せ、カノン風に「水は清きふるさと」を歌い、変形和音の後に、主和音に戻って静かに終わる。

男声合唱のための唱歌メロデー「ふるさと」の四季

故郷（ふるさと）～群馬小学唱歌第六学年用（大正3年）
高野辰之

夏は来ぬ～群馬小学唱歌第五学年用（明治29年）
佐佐木信綱

一 兎（うさぎ）追いかの山
小船（こぶね）釣りしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき故郷

二 如何（いか）にいます父母
恙（つつが）なしや友がき
雨に風につけても
思いいずる故郷

三 ころざしをはたして
いつの日にか帰らん
山はあおき故郷
水は清き故郷

春の小川～福生教科書 三年生の音楽（昭和22年）
高野辰之（林柳波 改作）

一 春の小川は さらさら行くよ
岸のすみれや れんげの花に
すがたやさしく 色うつしく
咲けよ咲けよと ささやきながら

二 春の小川は さらさら行くよ
蝦（えび）やめだかや 小船（こぶね）の群（むれ）に
今日も一日 ひなたでおよぎ
遊べ遊べと ささやきながら

臘月夜（おぼろつきよ）～群馬小学唱歌第六学年用（大正3年）
高野辰之

一 葉の花鳥（なのはなはたけ）に 入日（いりひ）薄れ
見わたす山の端（は） 霞ふかし
春風そよぶく 雲を見れば
夕月かかりて におい淡し

二 里わの火影（ほかげ）も 森の色も
田中の小路を たどる人も
蛙（かわず）のなくねも かねの音（おと）も
さながら霞める 臘月夜

鯉のぼり～群馬小学唱歌第五学年用（大正2年）
文部省唱歌

一 霞（いらか）の波と雲の波
重なる波の中（な）空（な）を
橋（たちはな）がおる朝風に
高く泳ぐや鯉のぼり

二 開ける広き其（そ）の口に
舟をも吞（の）まん様見えて
ゆたかに振（ふる）う尾鳍（おびね）には
物に動（どう）ぜぬ姿あり

茶摘（ちやつみ）～群馬小学唱歌第三学年用（明治45年）
文部省唱歌

一 夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
「あれに見えは茶摘じやないか
あかねだすきに菅（すげ）の笠」

二 日和（ひより）つづきの今日此頃（このころ）を
心のどかに摘みつつ歌う
「摘めよ摘め摘まねばならぬ
摘まにゃ日本の茶にならぬ」

一 うの花のおう垣根に 時鳥（ほととぎす）
早もきなきて 忍音（しのびね）もらす 夏は来ぬ

二 さみだれのそそぐ山田に 早乙女（さおとめ）が
裳裾（もすそ）ぬらして 玉苗（たまなえ）ううる 夏は来ぬ

われは海の子～群馬小学唱歌本唱歌（明治43年）
文部省唱歌

一 我（われ）は海の子白浪（しらなみ）の
さわくいそべの松原に
煙たなびくとまやこそ

二 我（わ）がなつかしき住家（すまか）なれ

三 生まれてしおに浴（ゆあみ）して
浪を子守の歌と聞き
千里寄せくる海の気を
吸いでわらべとなりけり

村祭～群馬小学唱歌第三学年用（明治45年）
文部省唱歌

一 村の鎮守（ちんじゆ）の神様の
今日はめでたい御祭日（おまつりび）
どんどんひややらら どんひややらら
どんどんひややらら どんひややらら
朝から聞（きこ）える笛太鼓

二 年も豊年満作で
村は総出（そうで）の大祭（おまつり）
どんどんひややらら どんひややらら
どんどんひややらら どんひややらら
夜まで賑（にぎわ）う宮の森

紅葉（もみぢ）～群馬小学唱歌第二学年用（明治44年）
高野辰之

一 秋の夕日に照る山紅葉
濃（こ）いも数ある中に
松をいろどる楓（かえで）や葛（つた）は
山のふもとの裾模様（すそもよう）

二 溪（たに）の流（ながれ）に散り浮く紅葉
波にゆられて離れて寄って
赤や黄色の色様々（さまざま）に
水の上にも織る錦（にしき）

冬景色～群馬小学唱歌第五学年用（大正2年）
文部省唱歌

一 さ霧消ゆる淡江（みなとえ）の
舟に白し朝の霜
ただ水鳥の声はして
いまだ覚めず岸の家

二 鳥（からず）啼（な）きて木に高く
人は烟（はた）に姿を踏む
げに小春日ののどけしや
かえり咲きの花も見ゆ

雪～群馬小学唱歌第二学年用（明治44年）
文部省唱歌

一 雪やこんこ霞（あられ）やこんこ
降っては降ってははずんずん積（つも）る
山も野原も綿帽子（わたぼうし）かぶり
枯木残らず花が咲く

二 雪やこんこ霞（あられ）やこんこ
降っても降ってもまだ降りやまぬ
火は喜び庭駆（か）けまわり
猫は火燵（にたっ）で丸くなる



常任指揮者 辻 秀幸

東京藝術大学声楽科及び同大学院独唱科前期修士課程修了。イタリアラノを中心に欧州音楽遊学、各地でコンサートに出演し高評を博す。その後国内外で伊・独・日本歌曲を中心にユニークなリサイタル活動を展開。オペラではその歌唱と演技で度々新聞各紙で絶賛された。

宗教曲演奏のスペシャリストとしてもソリスト、

指揮者としてその活動は常に注目を集めている。アマチュア合唱団の育成にも力を注ぎ、現在16団体の指導に関わっている。日本全国で合唱講習会・合唱祭での講師、コンクール審査員を務める。

コーラス関係のテレビ、ラジオ番組での出演も多く身体と共に活動の場は常に広がりに続けている。

日本合唱指揮者協会理事 東京都合唱連盟理事長
東京藝術大学・洗足学園音楽大学 各講師を務める。
2016年より小田原男声合唱団の常任指揮者。



指揮者 村田 雅之

石川県出身。中学時代より吹奏楽で指揮者、合唱部でピアノを務める。横浜国立大学工学部を卒業。在学中はグリーククラブに籍を置き、1年次より学生ピアノニスト、3年次からは学生指揮者を務める。在学中より多くの一般合唱団に参加、合唱全般の研究を積み、栗山文昭・松下耕・伊東恵司の各氏から影響を強く受ける。音楽関連会社に勤務の傍ら、なにわコロリアーズ、合唱団お江戸コロリアーズ(全日本合唱コンクール全国大会 同声合唱の部門

金賞・最優秀団体・文部科学大臣賞・シード合唱団)に於いては、歌い手の他、指揮・ピアノ・打楽器を担当する。横浜国立大学グリーククラブ・立正大学グリーククラブ・男声合唱団 東鶴(あずまつつ)・Kiyohachi Bravo'sなどの合唱団に於いて、指揮・ピアノ・アンサンブルトレンナーを務める。

2014年にトレンナーとして小田原男声合唱団で指揮・ピアノを担当する。2016年より指揮者に就任する。2022年9月24日に第27回早慶交歓演奏会において合同演奏(廣瀬量平「五つのラメント」)を客演指揮し好評を博す。



ピアノ 中根 希子

小田原市出身。東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。第3回長江杯国際音楽コンクール第2位等多数入賞。ウィーン、シカゴ等での音楽セミナー・マスタークラス参加、ディプロマ取得、修了演奏会出演。植田克己、佐藤俊、ノエル・フローレスの各氏に師事。1999年ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念及び国際シヨパン記念演奏会」に出演。2007年以降「市民による小田原音楽フェスティバル」では、小林研一郎・

末廣誠・広上淳一・高澤裕・山田和樹・黒岩英臣・佐藤真・瀬山智博の各氏の指揮のもと、第九・モーツァルトクレイイエム・ドイツイクレイイエム・メサイア等の演奏会でピアノ・アシスタントを務める。2009年ウィーン・フィルメレンバー、シュトイデ弦楽四重奏団と共演、2012年・2015年小田原でソロリサイタル開催他、2013年ヴァイオリン豊嶋泰嗣、2014年小田原フィルハーモニー、天満敦子他著名人との共演、いずれも好評を博す。2021年小田原三の丸ホールに於いて、ピアノ選定に貢献、同年9月ピアノ開きソロコンサートを開催、好評を博す。共立女子大学講師。



ヴォイストレンナー 杉山 範雄

小田原少年少女合唱隊に入隊。ルネッサンスから現代まで多くのアカペラ・アンサンブルを学ぶ。東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに、「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・アルフォンソ」「カルメン」等を演じ、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」等、演奏会・バスソロにて多数出演、小泉ひろし・小林研一郎・

飯森範親等、各指揮者のもとソリストを務める。また、合唱指導にも意欲的に取り組み、文化庁講師派遣によるワークショップ・関東各地合唱祭の講師を務める。現在、東京・神奈川を中心に指導団体は13におよぶ。小田原男声合唱団、明治大学グリーククラブ、中央区ブリエール・ジュニアコーラス、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」等の歌唱指導にも取り組む。神奈川県合唱連盟副理事長。日本合唱指揮者協会会員。神奈川県文化芸術振興審議会委員。

♪ 小田原男声合唱団2023 ♪

T 1	磯田 幸男 (小田原市)	T 2	青野 幸夫 (秦野市)	B 1	上利 宏司 (小田原市)	B 2	一色 義信 (秦野市)
加藤 重喜 (秦野市)	白石 健二 (開成町)	網盛 一郎 (小田原市)	亀山 忠彦 (小田原市)	網盛 一郎 (小田原市)	亀山 忠彦 (小田原市)	亀山 忠彦 (小田原市)	亀山 忠彦 (小田原市)
齋藤 恵司 (伊勢原市)	杉本 昇次 (南足柄市)	江川 卓男 (鎌倉市)	坂口 宗夫 (小田原市)	加藤 和信 (小田原市)	坂口 宗夫 (小田原市)	坂口 宗夫 (小田原市)	坂口 宗夫 (小田原市)
佐久間 隆弥 (大和市)	高瀬 福井 (小田原市)	加藤 久保 (小田原市)	鈴木 達也 (海老名市)	友宏 敬 (南足柄市)	鈴木 達也 (海老名市)	鈴木 達也 (海老名市)	鈴木 達也 (海老名市)
露木 聡 (小田原市)	福井 隆 (二宮町)	中村 武人 (秦野市)	千葉陽一郎 (横浜)	友二 吉昭 (秦野市)	千葉陽一郎 (横浜)	千葉陽一郎 (横浜)	千葉陽一郎 (横浜)
中島 弘光 (南足柄市)	☆ 柳田 圭一 (小田原市)	池田 万里 (小田原市)	野口 吉昭 (秦野市)	友二 吉昭 (秦野市)	野口 吉昭 (秦野市)	野口 吉昭 (秦野市)	野口 吉昭 (秦野市)
堀内 哲夫 (小田原市)	☆ 柳田 圭一 (小田原市)	岩越 万里 (小田原市)	柳田 圭一 (湯河原町)	柳田 圭一 (湯河原町)	柳田 圭一 (湯河原町)	柳田 圭一 (湯河原町)	柳田 圭一 (湯河原町)

♪ ワンステージメンバー2023 ♪

T 1	大竹 幸二 (秦野市)	T 2	田山 正弘 (伊東市)	B 1	熱田 隆純 (南足柄市)
石井 蔵之助 (鎌倉市)	津田 富士夫 (小田原市)	高瀬 昇次 (秦野市)	岩越 万里 (小田原市)	岩越 万里 (小田原市)	岩越 万里 (小田原市)
加藤 哲雄 (小田原市)	壺中 勉 (秦野市)	加藤 重喜	加藤 重喜	江藤 凱夫 (厚木市)	江藤 凱夫 (厚木市)
水城 高嶺 (秦野市)	☆ <尾> 尾崎喜八の詩から <ふ> ふるさとの四季 <ふ>	加藤 重喜	加藤 重喜	小西 正文 (茅ヶ崎市)	小西 正文 (茅ヶ崎市)

Team ODADAN (先生方)

常任指揮者
辻 秀幸

指揮者
村田 雅之

ピアノ
中根 希子

ヴォイス
トレーナー
杉山 範雄

運営メンバー

団長 杉本 健二
副団長/技術部長/事業部長 野口 吉昭
事務局長/会計担当 上利 宏司
役員部長 高瀬 昇次
渉外部長 露木 聡
財政監査 一色 義信

技術部
団内指揮者 福井 隆
T1パノ 齋藤 恵司
T2パノ 福井 隆
B1パノ 上利 宏司
B2パノ 一色 義信
顧問 齋藤 恵司
柳田 圭一
※パノ：パーノガー-

団員部
T1 中島 弘光
T2 高瀬 昇次
B1 中村 敬
B2 田島 達也
情報部 加藤 重喜

JAMICA担当 杉本 健二
KAMICA担当 鈴木 壽久
小田原地区 露木 聡
合唱連盟担当 杉本 健二
露木 聡

定演プロジェクトメンバー

リーダー 野口 吉昭
出演 齋藤 恵司・野口 吉昭
舞台 吉田 秀樹様
外画 露木 聡
写真 稲子 紀夫様
録音 稲子 紀夫様
打上げ 上利 宏司
マイク・PA 団員部
アンプ 野口 吉昭

諸措り 中村 敬
アパス 千葉 陽一郎
受付・案内 柏木 晶子様
西嶋 悦子様
杉本 健二・露木 聡

混声合唱団小田原木曜会様
混声合唱団シブナス'94様
小田原市文化サポーター
(レゾバシヨニスト) 様

合唱は脳活にいい!

合唱は脳活にいい!
健康にいい合唱あります!
合唱感動を一緒に!

小田原男声合唱回は、回員を募集しています

合唱経験・未経験不問!

練習用の全体音源・
パート音源あります!

練習日：火曜日 (週1回) 18:30~20:50 日曜日 (月1回) 13:30~16:50
火曜日練習場所：旭丘高校 音楽室 (4F) ~小田原駅東口より徒歩6分

※練習日時と日曜練習場所はお問い合わせください

【ワンステージメンバー同時募集】

定期演奏会 (複数ステージ) のうち1ステージ (=ワンステージ) だけをいっしょに歌うメンバーも募集しています。
フルステージで歌う余裕のない方、でも・・・少しでも歌いたいなあ!と思われる方、
私たち小田原男声合唱団の定期演奏会のステージに立ちましよう



メール

E-Mail : odadan1971@gmail.com
URL : http://odadan.org/



ホーム
ページ

E-Mail : odadan1971@gmail.com
URL : <http://odadan.org/>